【ちょっと薀蓄；「メヌエット」とは】

「メヌエット」、よく聞かれる音楽用語、多分学校でも習うでしょうし、御来場の皆様も御存知のことと思います。17 世紀、フランス起源の典雅な 3 拍子の舞曲です。

ところで、「メヌエット」は、ドイツ語読みです。本来はフランス語読みの「ムニュエ（menuet)」のほうがこの舞曲の起源と繁栄の歴史にふさわしいものでしょう。さらに面白いことに、古典派のソナタや交響曲に見られる「Menuetto」という表記は、特定の国の語ではなく、一種の混成語です。本日演奏する、モーツァルトの「リンツ交響曲」の第 3 楽章もこのように表記されています。(ドイツ語では「Menuett」ですし、イタリア語では「minuetto」となります。)

メヌエットの踊り方の基本パターンを作ったのは、ルイ 14 世の舞踏教師ボーシャンとされていますが、男女のペアで、フロアにＳ字形の図形を描くように踊ります。この宮廷舞曲の典型である、穏やかな速度の優雅な舞曲は、オーストリア、イタリア、イギリス等各国の流行となります。バロック時代の組曲では欠かせないものとなっていきます。

この舞曲が、ソナタや交響曲（シンフォニア）に導入されるようになったのは、18 世紀初頭のイタリアですが、交響曲や弦楽四重奏等の楽章の一つとして定着するのは、言うまでもなくハイドンによってです。もうこの頃になると、舞曲としての性格は薄れ始め、テンポも多様化し、ベートーフェン風の「スケルツォ」に近づくものも見られるようになります。

モーツァルトにはメヌエットの傑作も多く、「リンツ」の第 3 楽章も見事なものです。アマデウス君とコンスタンツェさんのペアが、二人を歓迎するリンツ市民の中で踊る様子を想像するのも楽しいのではないでしょうか？

（ＰＳ）近代フランスの作曲家、ラヴェルに「古代のメヌエット」というピアノ曲（後に管弦楽曲に編曲されています）がありますが、上記のように 17 世紀以前の「古代」にはメヌエットという舞曲はありません。ラヴェルらしい、ちょいと皮肉を効かせた遊び心が感じられるネーミングではありませんか。